

三清水寺

ここは山号を花灌山（はなぐさん）と称し、千手観音菩薩を本尊とする真言宗の寺です。

縁起によると平城天皇の御代（八〇六～八〇九）の創建と伝えられ、建久六年（一一九五）の国府文書には清水寺のことが記されているので、すでに鎌倉時代には創建されていたことがわかります。

このことにより、山口盆地の寺の多くが大内氏全盛の室町時代以降の創建であることを考えると、清水寺は山口盆地で最も古い寺といえます。なお境内には、山口県指定文化財が三件あります。

- 一 清水寺観音堂 昭和四二・一・一七指定
- 二 清水寺山王杜本殿 昭和四一・六・一〇指定
- 三 木造金剛力士立像 昭和五六・三・二四指定



山口県指定有形文化財

三清水寺観音堂

昭和四十二年一月一七日県指定
山口市大字宮野下一二二七番地

清水寺は千手観音菩薩を本尊とする真言宗の寺院です。縁起によると、平城天皇の御代の創建と伝えられています。が、建久六年（一一九五）の国府文書には清水寺境内のことが書かれているので、すでに鎌倉時代には大寺であったことがわかります。

この観音堂の建立は、明徳二年（一四九二）大内義興の時といわれています。が、江戸時代にたびたび大修理がなされています。

建立当時は、九間四方の禅宗様式の大伽藍であったといわれています。が、今は縮小され、五間四間となり、内部もかなり修理のあとがみられます。しかし、残っている細部の様式と、くに組物や木鼻の文様などに、室町時代の禅宗様式の特色がよく出ていて、貴重な建物です。

正面の階段の上の向拝は、江戸時代に付したもので、手法は、全く江戸時代のものとなっています。